

図書館だより

5月号 (令和7年度)

川之石高校図書委員会



新年度が始まりはや2か月、中間考査も終わりました。川高図書館の図書の貸出も始まっています。4月は貸出期間が2週間しかなかったため、貸出冊数はあまり多くありませんでしたが、それでも多くの方が川高図書館で本を借りています。また、昼休みや放課後、図書館を利用している人の姿も多く見られようになってきました。これからも図書室を有効に活用していきましょう。



【新任の先生より】

『土 地球最後のナゾ 100 億人を養う土壌を求めて』（藤井 一至 著）
地歴・公民科 松本 崇宏 先生



「土から離れては生きられないの!!」

スタジオ・ジブリの名作アニメ映画で、ヒロインが発したセリフです。なぜか強烈に印象に残っているセリフの一つですが、地理の教員になってたびたび思い出すことになるとは思いませんでした。

みなさんは、「土」と聞いてどんなイメージを持ちますか？普段、「土」に目を向けることってなかなかないですね。地理では、世界の気候や「土壌 (=土)」についても学びます。なぜ「土」について学ぶのか？実は、「土」が生きていくうえで必要な「食料」を生み出し、生活を支えているとんでもないものだからです。

国連によると 2025 年の世界の人口は約 82 億人になると予想されています。このまま増加が続くと 2050 年には約 96 億人に達するそうです。当然、人口増加によって「食料」がこれまで以上に必要になります。しかし、国連食糧農業機関（FAO）によると、食料生産に欠かせない地球上の土壌のうち 33%以上がすでに劣化しており、2050 年までに 90%以上の土壌が劣化する可能性があるそうです。「土」の危機は、すなわち「食料」の危機なわけですね。

『土 地球最後のナゾ』。この本を書いた藤井一至さんは、土を研究する土壌学者です。海外の知らない土地に出かけるときには、必ずマイスコップを携帯する。そんな筆者の追い求めるものの一つが「100 億人の人口を養うことのできる肥沃な土」。筆者によると世界には、12 種類の「土」が存在するそうです。その「土」の謎を解き明かしていく研究は、「食料をいかに生産するか」につながる、重要な研究に違いないと思います。

「土から離れては生きられないの!!」。このセリフに宮崎監督が込めた意味とは異なるかもしれませんが、この本を読んで、その意味に近づけた気がします。普段の生活で当たり前存在している「土」。みなさんの周りにも何気なく潜んでいる、欠かせない何かを見出すきっかけを与えてくれる一冊になるかもしれません。ぜひ、読んでみてください。



〔貸出時の注意事項〕

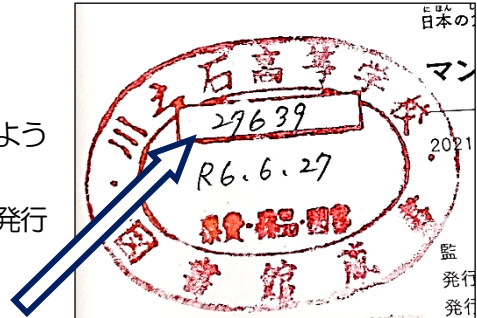
高校時代には、知識を身に付けたり教養を深めたりするためにも、できるだけ本を読んでもらいたいものですが、川高図書館がその助けになればと思っています。

現在多くの皆さんが川高図書館で本を借りています。ただ、本を借りる際に、不備のあるものがときどき見られます。本を借りるときは以下の点に特に気を付けてください。

貸出一覧表の「登録番号」を正確に記入する。

貸出・返却の情報はパソコンに入力します。判別しやすいように、丁寧な文字で記入してください。

「登録番号」は本の奥付のページ（本の終わりの、著者・発行者や発行年月日の記載があるページ）にあります。



「5ケタの番号（27639）」あるいは「9-4315」など

代本板を忘れず置く。

一覧表には記入されているのに、代本板が見当たらないことがあります。図書委員が本を元の場所に返すとき、返す場所が分からなくなってしまいます。必ず代本板用紙に記入して、本のあった場所に代本板を置いてください。

〔4月 月間図書貸出冊数〕

〈クラス別〉

4月14日～4月30日

1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	合 計
18冊	13冊	10冊	14冊	5冊	4冊	1冊	65冊

〈個人別〉

- 1位 4冊 宇都宮 妃南（3-2）
- 2位 3冊 菊池 直希（1-2）
- 2位 3冊 長山 未来（2-1）



**「本を燃やすよりも悪い罪がある。
そのひとつは本を読まないことだ。」**

ロシアの詩人、ヨシフ・ブロツキー（1940 - 1996）